

1. ハンナ・アーレント・・・「ナチは私たちと同じ人間である」、社会問題を自分事として考える、改憲など今の日本社会を考えていく上でカギとなる人だと思った。アイヒマンの映画を一部観たことがあるが、アイヒマンは一貫して「それは私の管轄外です」と責任逃れに見える発言を繰り返している¹のが印象的。その点と、新幹線と乗客の話がうまくフィットして、日常生活を送るうえで私もボーっとしてられない危機感を抱いた。
2. 「ヒトラー・ユーゲントから今私たちがどうあらねばならないかを考える」はとても興味を持った。参政権が今回の選挙から効力を持つようになるので、より自己の政治に対する意識を認識するうえでも、この論文を読みたいし、一緒に考えてみたい。
3. ヒトラー・ユーゲントは今の日本政治に似ている部分があると思った。日々日本という国が怖いものになっているのをひしひしと感じている。
4. それぞれの中間報告、一人ひとり全然違って面白かった。自分の体験から広げていく人は、ヒトラーについてなど、興味の湧く題材が多かった。ナチスに傾斜する若者たちという、ナチス・ドイツ時代の政治における青年や少年少女の役割についての発表にとっても興味がわいた。
5. イギリスにおける人種差別による問題は最初の映像にびっくり。あまりにも衝撃的過ぎだったので、やらせっぽいなと思い、制作元と放送元を質問。・・・VTRは大変衝撃的。・・・「イスラム教徒＝TV 内に出たような凶暴な人種」というイメージを意図的に植え付けるように感じられた。・・・イギリスの差別問題に関する動画を共有でき、問題意識を持つことができた。
6. スウェーデンの家族の在り方・・・少し動機が被っていたので、発表で示された参考文献を私も見てみようと思った。・・・日本とは異なる考え方が根付いており、面白いと思った。私は余暇について、日本と西洋の考え方の違いを研究テーマにしたいと考えている。・・・シングルマザーが日本よりマイナスなイメージがないのはしっかりと活躍できる社会が構築されているからなのかと思った。・・・スウェーデンの役所職員に女性が多いというのは聞いてうれしくなった。
7. ドイツの徴兵制などについて考えてみようと思っているが、日本語資料が少ない²。

¹ 伊丹万作「戦争責任者の問題」

(http://www.aozora.gr.jp/cards/000231/files/43873_23111.html) も、参考に。

² 以下の二つの論文は読んでみたかな？

「ドイツにおける徴兵制の変容-国家と個人の相克-」市川ひろみ（今治明德短期大学 広島平和科学 24(2002)広島大学）

<http://home.hiroshima-u.ac.jp/heiwa/JNL/24/Ichikawa.PDF>

木戸衛一「徴兵制「停止」に向かうドイツの政治社会：軍事化の中の民主主義と人権（大平祐一教授 徐勝教授 中島茂樹教授 松井芳郎教授 水口憲人教授 退職記念論文集）」、『立命館法學』2010(5/6)、1963-1988、立命館大学、2010年、